

## 4

## 考察

## 1. 鉄道会社にとっての観光列車の存在

### 1. 鉄道会社にとっての観光列車の存在

日本の鉄道には JR、私鉄問わず様々な観光列車が走っている。なぜ鉄道会社は観光列車を走らせるのか、また地域にどれだけ貢献しているのか考察していきたい。

### 2. 観光列車

JTB 総合研究所により観光列車とは「内外装を凝らし、味覚を楽しみながら旅行が出来るなど、乗ること自体を目的にした列車」と定義づけている。

### 3. 歴史

初めて現在の意味の「観光列車」の呼称を用いたのは、1990年にJR東日本に登場した「ノスタルジックビューートレイン」である。この列車はそれまでの「ジョイフルトレイン」と違い、ほぼ五能線でのみ運行された。しかし好評だったためその後「リゾートしらかみ」として引き継がれ、2000年代に入るとJR東日本の他路線でも「きらきらうえつ」「きらきらみちのく」といった追従例が生まれたほか、JR北海道やJR西日本などでも同様の列車が運行され始めた。2010年代には利用客の増加や沿線観光地の振興を目的に、地方私鉄でも相次いでこうした列車が数多く誕生した。また、JRでは「伊豆クレイル」や「伊予灘ものがたり」など全車グリーン車の列車が複数登場し、豪華寝台列車「四季島」が登場するなど、進化し続けている。

### 4. 観光列車の役割とは

鉄道やそれに関連する施設は次のような魅力がある。まず車窓風景である。変化に富む自然景観や田園景観等を愛でるに相応しい風景、普段の通勤電車ではできない乗車体験そのものなどの非日常的な列車に乗車すること自体が希少な観光体験でもある。地域の産業・暮らしを支えてきた長い歴史を持つ地域鉄道は、近代化の面影を残す文化資源としても価値が高い。鉄道ファンだけでなく一般観光客にとっても、地域の産業・暮らしの文化等をテーマとする観光において、魅力ある体験の場となる。これらの非日常的な要素を強く生かせるのが観光列車である。

観光列車は以下のような点で鉄道会社や地域振興に役立っている。

1. 駅舎の観光魅力や集客力の創出・向上／駅・車両基地機能の観光活用
2. 車両自体の観光魅力や集客力の創出・向上
3. 接客サービス向上
4. 観光利用目的の輸送サービスの創出・向上
5. 観光利用目的の運賃割引
6. 特産品開発
7. 鉄道および地域のイメージ向上
8. 沿線地域の観光魅力や集客力の創出・向上
9. 沿線地域の観光魅力の情報発信
10. 観光乗継交通との連携
11. 地域の多様な主体との連携による観光振興の取組
12. ファン取込

■観光列車化・車両内イベントのタイプ

テーマ	概要	具体的なイベント列車
飲食	運行している車両内で飲食をふるまう。	シチュー列車、ほろ酔い列車、けの汁列車(弘南鉄道)、しし鍋列車(樽見鉄道)・おでん列車、ビール列車、ワイン列車、酒蔵開放列車、薬膳列車、朝市列車、グルメ列車
音楽や演芸	音楽を奏でたり、演芸を披露する。	ジャズトレイン(三陸鉄道)、復興歌声列車(三陸鉄道)、落語列車、シアター列車等
季節の祭事	季節毎の祭事・節句を車両内で実施する。	サンタ列車・クリスマス列車、節分豆まき列車、おひな様列車、鯉のぼり列車、七夕列車、鈴虫列車、風鈴列車、お月見列車、ハロウィン列車等
宴会	冠婚や男女の出会いに関するイベント	結婚式列車、独身交流会列車・お見合い列車等 会議列車
学習	大人、子どもがそれぞれの立場で学ぶ	俳句列車、クイズ列車、夏休み自由研究列車、絵本読み聞かせ列車等
その他		ファッションショー列車、コスプレ列車

また次の図で鉄道観光事業だけでなく実際に鉄道会社を取り組み会社の収益向上につながっている事例を紹介したい。

■特産品開発・販売が地域鉄道経営の収益向上に大きな役割を演じている例

地域鉄道名	特産品等の概要	事業効果																					
銚子電気鉄道	地域の名物菓子である「ぬれ煎餅」や、「たい焼き」「たこ焼き」等。特に「ぬれ煎餅」は、駅売店で販売するだけでなく、全国のデパート等様々な場所で売っている。	「電車修理代を稼がなくちゃ、いけないんです」という売文句とその取組姿勢が話題を呼び、販売したぬれ煎餅が全国的なブームになる。一時は本業の運輸収入以上の売上を計上																					
和歌山電鐵 資料) 小嶋光信: 日本一のローカル線をつくる～たま駅長にまなぶ公共交通再生, 学芸出版社	イメージシンボルとなるスーパー駅長たまや、ユニークないちご電車、おもちゃ電車等を、訴求力ある興味対象、観光対象として登場させるとともに、これらをキャラクター化した、多くのグッズを開発し、通販を含めて広く販売している。	<table border="1"> <caption>2005年～2010年の売上収入の推移 (単位: 倍)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>2005年</th> <th>2006年</th> <th>2007年</th> <th>2008年</th> <th>2009年</th> <th>2010年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グッズ売上収入等</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>34</td> <td>73</td> <td>77</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>運輸収入</td> <td>303</td> <td>334</td> <td>331</td> <td>351</td> <td>348</td> <td>395</td> </tr> </tbody> </table>	年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	グッズ売上収入等	0	6	34	73	77	109	運輸収入	303	334	331	351	348	395
年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年																	
グッズ売上収入等	0	6	34	73	77	109																	
運輸収入	303	334	331	351	348	395																	
遠州鉄道	地元農家との契約や独自加工品開発により、静岡県浜松、遠州地方のお土産を充実させ、「遠鉄マルシェ」として商品化。高速道路SAやグループ会社店舗等で販売している。	人気商品として、ブランドとなりつつある。																					

鉄道会社の観光列車に関する取り組みについてまとめてみたが上記のことからもわかるように、近年の鉄道会社の観光の取り組みを語るうえで列車そのものだけで語ることは困難である。各鉄道会社が事業の拡大、多角化を進めるだけでなく政府などの地域創生などの取り組みによって非常に複雑なものになっているからだ。今後もどのような観光列車や事業が登場するか注目していきたい。

(2年 長谷田)

## 5.参考文献

日本観光振興協会調査 <https://www.mlit.go.jp/common/000991950.pdf>

# 2. 本研究中の観光列車の存在

## 1. ラ・マル・ド・ボア

この列車は JR 西日本が各地で運行している観光列車の 1 つであり、213 系の改造車両によって運行されるが、全車グリーン車というハイグレードな仕様となっている。JR 西日本が運行する観光列車はキハ 40 などの古い車両を改造した車両で運行されるものが多いがこの列車も同様である。JR 西日本においては各地で運行している観光列車の岡山・瀬戸内地区バージョンといった位置付けであると考えられる。他に同様の観光列車として広島県では etSETORA、山口県では〇〇のはなし、山陰 2 県ではあめつちが挙げられる。

## 2.DL やまぐち

SL/DL やまぐちは SL 北びわこ廃止以来、JR 西日本管内唯一の SL であり、SL が故障や整備等で走らない時でも DL での牽引で運転されており旧型客車での旅の人气が伺える。定期的に運行されている臨時列車の中では JR 西日本唯一の客車列車であるため同様の位置付けと言える列車はなく唯一無二の存在と言える。また、特に重連や特別なヘッドマークを掲出する時など、沿線の撮影地のマナーが度々問題となっており、運賃・料金収入の増収にならないにも関わらず、沿線警備のコストが嵩む点は問題であると考えられる。

## 3.パレオエクスプレス

パレオエクスプレスは東京から最も近い SL であることを PR しており、秩父鉄道の代名詞とも言える観光列車である。以前事故の影響により SL が長期の運用離脱を余儀なくされた時にも牽引機を電気機関車に切り替えて運行するなど重要な存在であることが窺える。秩父鉄道の HP を開いても鉄道情報や長瀬などの観光情報と同列でパレオエクスプレスの専用ページが用意されており、同社の代表格と言える観光列車にして唯一の観光列車と言えるであろう。

## 4.VSE

VSE はロマンスカーの名で有名になった小田急の特急列車の人气が、展望席のない通勤向け特急車両の登場により低迷していた時期に観光需要に対する起爆剤として投入された車両であり、登場以来ロマンスカーの代名詞とも言える存在である。VSE は 2023 年 12 月 10 日にツアー運行を含めたすべての運行を終えることが発表されている。定期運行終了の発表以来、その人気の高さからツアーなどはほとんど満席となっており、また昨今は毎週のように臨時運行のツアーが企画されており、小田急内での重要度も窺える。

## 5.北九州レトロライン

北九州レトロラインは平成筑豊鉄道の一路線という扱いではあるが、トロッコ車両での運転であり、